



4年生話題提供授業 協議会記録 授業者 4年 4組 教諭

成果

◎児童の様子

- ・友達同士の教え合いが見られた。
- ・児童一人一人が課題を明確にして活動していた。
- ・教師の指示で、児童が活動を切り替えられていた。
(ぐっところえて、バツと活動する！意欲◎)
- ・はやく運動したい！という児童の思いが見られた。体を動かすことを楽しんでいる児童が多い。

◎教師の支援

- ・教師が児童と丁寧に向き合い、指導にあたっていた。
- ・タイムマネジメントがしっかりされていた。
- ・児童の準備運動が充実していた。
- ・児童がコツを意識できるよう、声掛けをしていた。

<児童の姿>

○さん

「タイマーをはかってやってみた。
1分20秒できたのでよかった。」
→活動を工夫して、技能を伸ばそうとしていた。

Eさん

「飛びリズムを考えたら200回とべた。友達とやったらできた。リズムを考えてとぶことが大切だと分かった。」
→友達と協力して、技のコツを考えながら活動していた。



課題&疑問

◎本時の流れについて

- ・コツを教え合う時間の設定が必要だったのでは？コツが全体に広がるような手立てが欲しい。
- 場面を作ろうとはしていたが、当日の判断で、教師が個別に声掛け&見取りをする方法に切り替えた。
- ・導入で、自分の課題を確認し、友達と伝え合う活動を取り入れてもよかったのではないかな？
- Hくん、活動終了間近で「やっぱり跳ぶだった！」(ずっと回すをやっていた…)
- ・複数人での活動(ペアなど)を取り入れてもよいのではないかな？
- 1組の事前授業では、複数人で課題に取り組むことにより、活動が広がっていく様子が見られた。

◎課題意識のもたせ方

- ・児童の課題認識、達成基準の理解があいまいだった？
- 本時に達成できないことを課題として掲げている子がいた。(サーカス並みの大技に挑戦しようとしていたMさん…) 達成基準を明確にする。本時では、「自分でできて、コツを友達に伝えられればOK」とのことだった。距離(ラインを引く)や回数などの明確な基準があるとよい。

◎振り返りについて

- ・児童の振り返りカードが曖昧だった。そのため、課題を立てるのも難しかったのではないかな？
- 自己の課題は何かと聞くと、言葉では言える。けれど、振り返りカードに表現することができない。どのような形で振り返ることがよいのか？学校内で、振り返りの在り方について研究していく余地がある！

☆菊地の思う、「勉強になった！」ポイント☆

<緻密な時間管理、単元を通した授業のつながり>

→図工も体育も、活動の時間(体育なら運動量とよく言いますが)をじっくり取りたい教科ですよ…。だからこそ、導入に全体で確認すべきこと、投げかける声掛けなどは、じっくり吟味する必要があると感じます。導入の児童の発言によって本時の流れが左右されてしまう…！そんな恐怖を抱えながら導入をするのではなく、前時のまとめで本時の見通しをもっておくことや、個人の課題を明確にしておくことなどは、改めて大切なことだなと思いました！本時の授業は、既に前時のまとめから始まっているのですね！私も気を引き締めて、本時と前時を繋ぐような展開、声掛け、振り返りの工夫などをしていきます！

☆4年生までに、少しでも「できる動き」を増やしておくべし！

→学年は神経系の発達が著しい。いろいろな動きに触れさせることが大切。同じ動きでも、より・や状況を変えて、難易度を変えられるようにし、できる動きを増やしたい。

☆児童の「やったー！」という声を大切にする。達成基準は明確にすべし！

→教師の、「何にしますか？」という問いに対して、課題を見付けられる児童とそうでない児童がいた。どうなったら「できた」とするか？達成基準が児童に委ねられていた。自分なりの「できた」を、友達と共有することは難しい。回すなら20回！できたら30回！などと具体的に基準を示し、できる子には最高回数を目指してごらん！と投げかけるのも◎ゴールラインが明確になると、児童も達成感を感じ、自ら伝えに来るようになる。

☆個と集団の両方で、動きの高まりを目指す！

→個人の動きの高まりだけでなく、集団で動きを高めることを大切にする。そのために、児童の動きを想定し、その際の指導法を考えておく。必ずしも、個に留まる必要はない。

例) 投げる…わっかが戻ってくるのを待っていて、4人くらいで又抜きをする。できると、みんなで達成感を感じることができる！

投げる…バスタオル使い、向かい合ってボールをつなげていく。ペアやチームで協力して行うことで、達成感を感じられる。密にならず、接触を防げる。事前に教師が取り組み、コツを見付けておくとうい！

☆準備運動は、ポイントをおさえるべし！

→アキレス腱の運動…両手を膝において胸をはると、腰から下がしっかり伸びる！

じゃんけんすごろく…熊の運動は、ゆっくり「のしのし…」のリズムで行うとうい。手に重心がかかる感覚が養われる！

キラリと光る付箋

成果

- ・活動の場は、コーナーごとにすることで、動きをマネする子がいた。
- ・やってみようタイムは、めあてを明確にし、課題を理解することに有効だった。
- ・課題解決に向けた活動時間が確保されていた。
- ・場や教具が計画的に準備されていた。

課題

- ・上手な子の紹介を授業の中間で行ってもよかった。コツを伝える→できるにつながる。
- ・それぞれの技の紹介カードがあると良い。
- ・転がすコーナーのねらいを明確にする。
- ・帽子は、活用しやすいので、うまく活用していく必要がある。
- ・ペアから4人組の活動があると、より多様な動きがでてくるかもしれない。

導入では、課題を明確にしてから運動に取り組むことで、児童が主体的に学ぶ環境づくりにつながる。授業の途中で上手な動きのコツを伝える時間を確保することで、様々な動きを知り、児童同士の対話が増えることにつながる。場の工夫では、それぞれの動きの例示があると児童もたくさんの動きを経験することができる。その際、その運動の特性を生かしたねらいのある動きを経験させることが望ましい。個人→ペア→複数人と人数を変えることで動きの幅が広がる。帽子は、児童が達成できたと思っていても教師の立場からするともう一歩とを感じる児童の可能性もある。意図を明確にして積極的に活用していくことが重要である。これから、帽子の活用の仕方を考え、児童と教師の互いに価値のある方法を検討していくのもおもしろい。